

鯖街道 熊川宿

令和4年8月1日発行

若狭熊川宿まちづくり特別委員会

福井県三方上中郡若狭町熊川
TEL/FAX (0770) 62-0330

熊川宿ホームページ <http://kumagawa-juku.com>



熊川トレイルゲートウェイ 熊川ポケットパーク 輪工

—令和4年4月9日(日)オープン—

道の駅から熊川宿への アクセスがスマートになりました

熊川宿を起点として河内川ダム周辺の自然環境を活かした周遊と滞在エリアを創出するため、関西からの玄関口である道の駅の集客効率を高めると共に、熊川宿へのアクセス向上を図るため、若狭アドベンチャーツーリズム拠点整備事業として、若狭町と福井県の事業で整備されました。

ポケットパークは、河内川ダム建設現場事務所跡地を有効活用し、国道303号沿いに新たに普通車46台やバイク専用の駐車スペースなどが設けられ、バスベイの設置や横断歩道の移設など安全性と利便性が向上しました。

ゲートウェイは、遊歩道をはじめゆったりと過ごせる休憩デッキや、キッチンカーが営業できるイベント広場が整備されました。休憩デッキは、天然杉のウッドテラスを設け、小高い場所にあるお洒落なカウンターデッキで旅の疲れを癒せます。四季彩館は、西側に玄関を設け、観光客の双方向の動線が確保され、手軽にテイクアウトできる売店が増築されました。京都からサンキューvanaが出店され、歩きながらお洒落に町並みを散策できます。

道の駅と熊川宿との見通しがよく、行き来しやすくなり、週末を中心に多くの人が行き交っています。

目次

ゲートウェイ・ポケットパーク竣工	1
寄稿文・事業報告	2
お店紹介・話題・お知らせ	3
研修報告・事業計画	4
活動報告・NEWS	5

寄稿文・事業報告

～熊川宿に住んで～

令和4年度 熊川区長 近田 幸裕

コロナ感染拡大から3年、私たちの日常生活は大きく変化し、今までの常識が大きく覆され、自粛自粛の日々に抵抗を感じつつ、感染予防を第一に日々の生活をおくつてまいりました。待望だったワクチン接種も4回目の状況になつて、少しずつ、感染状況は落ち着きを見せてきてはいます。ただ「withコロナ」の生活は今しばらく続きそうです。

テレビでは、ウクライナ情勢や給付金詐欺など、暗いニュースで持ちきりですが、熊川区内に目を移していくと、4月に道の駅の横に熊川トレインゲートウェイ・ポケットパークが完成し、京阪神からの玄関口として大きな話題になりました。また、アウトドアブームの中、今年度中には、河内川ダム周辺に、新たにキャンプ場やBBQが出来る施設が整備される予定になつております。



熊川宿の賑わい

BBQが出来る施設が整備される予定になつております。また、広報活動においても、熊川宿ホームペー

能になり、検索・閲覧数も増えてくると考えられ、観光地としての熊川は明るいと感じています。

ただ、区内の実情としては、少子高齢化が進み、熊川の未来を支える子供が少ない事が心配です。コロナ禍でのSNSの普及で多様化が大きく進み、同じ場所に居ても違う画面を見ていたり、違う会話が出来てしまい家族や友人の希薄化が進んでいる様に感じます。

新しい波がおこる際には、何らかの弊害はつきものかもしれないかもしれません。熊川区には古き伝統、文化を受け継ぎ守つていく所と新しい技術や試みを取り入れて区民皆が一致団結して取り組み、実行で喜びを是非次世代にも残していくたいと感じています。

またその一方、最近企業ではBCP(事業継続計画)という意味で、有事でも根幹を残して取り組める対応を求められる様になつています。熊川区

でも簡素化する所は簡素化し、決して無理はせず今後継続して取り組める範囲の中で、区民一人一人が住んで良かったと思える熊川宿であつて欲しいと願っています。

熊川宿ホームページリニューアル進捗状況

観光庁が
勧める「地
域の魅力再
発見事業」で、
アウトドア
体験の「沢
登り」や「里
山トレイル」
をサポート



<https://kumagawa-juku.com/>

3/11 リニューアル打合せ

デザイナーさんにお越し頂いた
ためのレクチャーが行われました。
一通りの説明を受けた後、松見
広報部長が実際に修正作業などを
試行してみました。

5/4 修正作業

各店舗写真を撮り直し、掲載準備を進めてきました。

HPがリニューアルされ、このほどテスト公開が始まりました。

1/20 テスト公開開始

関係者による修正検討会議が予定されていましたが、コロナ禍で中止となり、メール等のやり取りで修正作業を進めます。

HPがリニューアルされ、このほどテスト公開が始まりました。

6/19 お店情報確認書配付

HPに掲載のお店情報を確認するため、役員有志で確認書配付の分担作業を行いました。お店からの回答を受けて順次修正して行きます。

また今後、インバウンド層誘致の観点から、英語版の制作も検討しています。

お店紹介

新規にオープンされたお店を紹介します。アンケート形式でお答えいただきました。

①熊川宿でお店を始めようと思われたきっかけは？ ②熊川宿の印象は？ ③お店のおすすめ商品は？
八百熊川さんについては4室目のオープンにあたり、コンセプトなどを書いていただきました。

八百熊川 やまね

八百熊川4室目となる「やまね」を令和4年3月にオープンさせることができました。

物件は所有者である勢馬さんからお借りした菱屋裏の土蔵になります。土蔵はどっしりとした造りで、内部はとても静かで冬も暖かくお宿としても好評いただけるのではと感じています。

景観的にもよくなるのではと今回街道から土蔵まで続く前庭も整備しました。



2022
3/1
OPEN

◇プロフィール
業種：一棟貸し蔵宿
所在地：中ノ町(宿泊地)
TEL：0770-62-1777
FAX：0770-62-1772
URL：<https://yao-kumagawa.com/>
※宿の受付は菱屋になります

令和2年から続けてきた八百熊川の開発ですが今回のやまねで一旦終了となります。今後は食品加工など、より若狭の食文化を活かせるような取組みへ幅を広げていきたいと考えています。

熊川の開発ですが今回のやまねで一旦終了となります。今後は食品加工など、より若狭の食文化を活かせるような取組みへ幅を広げていきたいと考えています。

太い柱や梁を残し、新たに浴室やキッチン、薪ストーブを設置し、ゆっくりのんびりくつろげる空間が広がっています。

内覧会が行われました。

2/26

八百熊川古民家蔵宿 「やまね」内覧会

八百熊川古民家蔵宿

5/18

八百熊川が 地方創生賞を受賞

21年度「ふるさと銘品オブ・ザ・イヤー」の地方創生賞（部門）に株デキタが運営する「八百熊川」が選ばれました。

おめでとうございます。

地域ブランド「八百熊川」は、熊川宿で空き家を再生し、分散型古民家宿を運営、地域銘品オンラインストアを展開しています。地域全体を活性化させた取組みが評価されました。



◇プロフィール
業種：飲食業
所在地：道の駅西側
TEL：0770-62-9111
FAX：0770-62-9112
営業時間：10:00～16:00
URL：<http://kumagawajuku.jp/>

2022
4/9
OPEN



若狭町歴史文化課からのお知らせ

○伝建地区内の建物の活用に係る補助(町単独)制度をご活用ください！

補助内容

- ① 対象：伝建地区内主屋・土蔵・付属屋外観の修理・修景（例：空き家を居宅や店舗として活用）
- ② 補助率：事業費の30%以内（限度額1件10万円・予算の範囲内）

■伝建地区内の工事には現状変更許可が必要です。

保存地区内のすべての建物（非保存物件を含む）、保存計画に定められている工作物、環境物件等の工事を行う場合は、事前に現状変更の許可を受ける必要があります。工事の計画がある場合は、お早めにご相談ください。

■伝建修理補助（町単独）制度をご活用ください。

国県補助制度の他にも、屋根や外壁等の小規模修理に対する町単独補助制度があります。（予算の範囲内）雨漏り等お困りの方は、お早めにご相談ください。

お問合せ先：若狭町歴史文化課（若狭三方縄文博物館内）TEL 0770-45-2270 FAX 0770-45-3270

第45回 全国町並みゼミ 新潟市大会

とき：令和4年6月11日(土)・12日(日)
ところ：新潟県新潟市・新潟市民プラザほか

報告：宮本哲男

市民による歴史まちづくりへの取組みと、新潟の現状を全国のまちづくり関係者に伝えると共に、地域の歴史への関心を深め展望を開く事を目的として開催されました。熊川宿から宮本会長、西村顧問の2名が参加しました。



第6分科会まち歩き



第6分科会



夕食・交流会

1日目は、総合受付の後、6つの会場に分かれて分科会、夜はアルコール抜きのお弁当形式で交流会、地域ブロック別会議が行われました。

第6分科会のまち歩き「複雑な路地が廻る天明町界隈」では、戦火を逃れた昭和の風情が各所に残りました。

路地が多く空き家が増えている。また、建替えが難しく火災の心配もある。災害のリスクを考え再生利活用を図ることを考えるまち歩きとなりました。

第6分科会は「路地のある町をどう安全に魅力的ににしていくか」をテーマに開催。北島さんから八女福島での活動を元にした基調報告を受け、それぞれのパネラーの皆さんから発表とディスカッションが行われました。

北島さんから

「まちづくりは長いスパンがかかる。色々な課題にぶつかるが、

自分の自ら成長する事が大切で、

ブレない哲学と、

回りの共感を得られ輪が広がる」

とコメントがあ

令和4年度 若狭熊川宿まちづくり特別委員会 事業計画 (R4.7)

- 4月26日 第1回 まちづくり役員会
- 6月 2日 熊川宿街路灯清掃(関電送配電)
- 6月 3日 第1回 まちづくり委員会
- 6月11・12日 全国町並みゼミ新潟市大会
- 6月12日 ホタル観賞会(地域づくり協議会他)
- 7月 3日 七夕飾り
- 8月 1日 町並み通信第45号発行
- 8月 1日 若狭町伝建地区保存審議会
- 8月14・15日 街かど陶の灯り展(陶の灯りの会)
- 8月15日 納涼盆踊り(中止・熊川区)
- 9月 第2回 まちづくり委員会
- 10月2日 熊川いっぷく時代村(中止)(熊川いっぷく時代村実行委員会)
- 10月上旬 文化庁調査官を囲む会・現地指導(小浜西組または今庄宿)
- 12月 第3回 まちづくり委員会

〈令和5年〉

- 2月 1日 町並み通信第46号発行
- 2月上旬～3月中旬 熊川宿のひなまつり
- 2月中旬 熊川宿まちづくり総集会(未定)
- 3月 令和4年度 最終まちづくり委員会
- 〈随時・当面する活動・協力〉
 - ・若狭町・近隣のまちづくり研修・交流会などに参加
 - ・伝統的建造物の保存修理への協力
 - ・西山稻荷～展望尾根周辺の環境整備
 - ・ふくい城巡りプロジェクトへの参画
 - ・熊川城跡・熊川トレイルへの誘客PR
 - ・エリア開発会社(株)クマツグに対する支援
 - ・熊川地区グランドデザイン・若狭アドベンチャーツーリズム等と連携・協力
 - ・移住・出店・空き家提供希望者への支援
 - ・一般社団法人・出店者との連携・協力

*いずれもコロナの状況等により変更や中止の可能性あり

る場所、インフラ整備が遅れ海拔ゼロメートル地帯で災害リスクが懸念されるものの、温かなコミュニティ景観に遭遇。蒲原神社、今代司、沼垂白山神社、沼垂テラス、峰村醸造、なり(ゲストハウス)、万代中央商店街、天明町から分科会会場の三社神社へと案内いただきました。

各地のまちづくりで、よそ者の若いう世代が新しいまちづくりにチヤレンジし地域の活性化に貢献しています。その時代の変化をしっかりと認識し、自分の地域に活かす事が出来る分科会でした。

特に北島さんには熊川宿の空き家対策にも大変お世話になつておられます。改めて八女福島での取組みをお聞きし、今後の活動に活かしたいと感じました。

夕食の後、北陸甲信越ブロック会議が開催され、参加された皆さんから自己紹介を兼ねた近況報告があり、熊川宿からも令和3年度の動きをお伝えしました。

ブロックゼミは隔年開催で県単位の持ち回りとなつていて、開催の希望などをお聞きしました。また、ブロック会議はZoomで開催する事となりました。

2日目は全体会が行われ、各地からの報告、分科会の報告、富美賞の贈呈がありました。

最後に次回開催地の小樽市の迫市長へ大会旗が引き継がれ、全国町並み保存連盟北島副理事長から実行委員並びに地元ボランティアスタッフの皆さんに謝辞を述べられ閉会しました。

りました。



3/13 歴史環境講座 宿場検証
(若狭町・パレア若狭)

日本近世交通史・地域文化史が専攻で、草津宿街道交流館館長の八杉淳氏が講演され、東海道や中山道の宿場、脇街道の宿や問屋の役割などについて解説されました。

「熊川宿は、町並みや資料が残っている・当主が居ることから今後の宿場町研究に期待される」とまとめられました。



3/8 大学院生による調査報告会
(熊川宿まちづくり委員会)

北陸先端科学技術大学院大学博士課程2年麻生大雅さんが、昨年から熊川宿のまちづくりに関する調査され、卒論完成に伴い報告されました。

よそ者出店者による歴史的町並みの活用促進プロセスとその理由を明らかにしようと、延べ9回およそ30日ほど熊川宿へ足を運ばれました。



2/6~ 熊川宿のひなまつり
(熊川宿まちづくり委員会)

雛人形は寄贈いただいたものや、通年ご自宅内で飾っているものを、できるだけ多くの方にご覧いただけるよう街沿いに展示しました。

展示期間中の寄贈もあり、21ヶ所26組のお雛様が飾られました。展示場所の目印となるかわいいのぼり旗も設置しました。

令和4年1月



4/9 映画「おしょりん」熊川宿口ヶ
(若狭町・熊川宿まちづくり委員会対応)

福井県の代表的産業となつた眼鏡づくりの歴史を描いた小説「おしょりん」(16年藤岡陽子著)を映画化したもので23年秋公開予定。

小泉孝太郎さんらも出演され、大阪でのシーンを熊川宿で撮影されました。

「熊川宿は、町並みや資料が残っている・当主が居ることから今後の宿場町研究に期待される」とまとめられました。



4/6 熊川宿への誘導サイン設置
(若狭町)

令和2年度からスタートした熊川地区グランピングデザイン検討会議の取組みで、検討委員によるまち歩きなどを実施して、国道や道の駅から熊川宿への誘導サインが必要という結果を受けて整備されたもので、景観に配慮したデザインになっています。



3/28 熊川宿陶の灯りの会
(熊川宿陶の灯りの会)

長年委員長を務めていた藤本正夫さんの逝去に伴い、正副委員長の選出と、令和3年度事業・会計報告が承認され、今後の予定を検討しました。

お盆の2日間行われる陶の灯り展までに、灯りの会委員で作品を増やすことが協議されました。

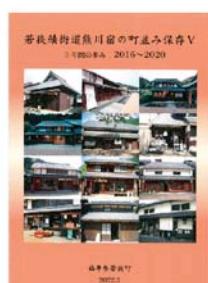
令和4年1月



5/11 「鮎街道サイクリングマップ」発刊
(小浜市・若狭町日本遺産活用推進協議会)

日本遺産認定の「御食国若狭と鮎街道」をサイクリングで楽しんでいただこうと作成されました。初級から上級向けまで全7コース、お勧めスポットも紹介されています。

小浜市や若狭町内の道の駅や観光案内所などで入手できます。



5/1 「町並み保存5年間の歩み」発刊
(若狭町)

熊川宿の建物等の修理報告書が刊行されました。

平成28年度から令和2年度までの5年間に修理・修景された実施報告と活用事例についての概要、まちづくりの歩みがまとめられています。

さらに所有者や活用者の感想も書かれていて熊川宿活性化の意気込みがうかがえます。



4/20 新商品開発「葛飴・葛の葉茶」
(若狭町・熊川葛振興会ほか)

若狭町と熊川葛振興会が中心となって、熊川葛を使った新商品を開発。葛の花やエキスを配合した「葛飴」と、葛の葉を活用した「葛の葉茶」が完成しました。町内の道の駅などで購入できます。

いずれも国の補助金を受けた若狭町が企画し、自然再生に取組む東京の会社が開発を担当しました。

令和4年1月

